

令和 7 年 2 月 21 日

教 育 長 様

研究コース	
B グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
741696	
選定番号	

代表者	校 園 名：	大阪市立育和小学校
	校園長名：	青山 真丈
	電 話：	06-6713-1253
	事務職員名：	高橋 一真
申請者	校 園 名：	大阪市立育和小学校
	職名・名前：	校長 青山 真丈
	電 話：	06-6713-1253

令和6年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和5年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）												
2	研究テーマ	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成をめざして ～小学校6年間を通じた系統的な教育課程編成と指導のあり方～															
3	研究目的	1.新学習指導要領をふまえた図画工作科指導のあり方を探る。 ・授業研究会を実施し、「育成を目指す資質・能力」「教育課程の編成（何を学ぶか）」「指導計画の作成、学習指導の改善・充実」「子どもの発達をふまえた支援のあり方」「学習評価の充実」「学習環境の充実」について研究する。 2.全市的な図画工作科の指導力の向上を図る。 ・実技研修会（教育センター主催研修への講師派遣、部内実技研修等）の実施。 ・研究成果発表会等により市内各校教員の指導力の向上を図る。 3.大阪市立全小学校を対象とした絵画展・版画展を実施し、児童の表現への理解を深める場を提供する。															
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSコシック 9.5キリ） [4月] 今年度の研究推進について、学習指導要領に示されている「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育成するため、計画を策定した。 [5月～6月] 今年度の研究推進体制を立ち上げる。 今年度は新たなメンバーも加わり研究部として厚みを増した。研究部役員・幹事会を経て、研究委員会全体会で、研究の方向性と図画工作科における「主体的対話的で深い学び」の授業改善につなげる研究を推進することの共通理解を図り、年間研究計画を策定した。 [7月～8月] 今年度も研究委員を対象に、感染症対策を講じた上で夏季実技研修会を実施した。日々の図画工作の授業の在り方や、2学期から始まる授業研究会の題材について、研鑽を深めることができた。また、大阪市小学校教育研究会主催の夏季研修会においても、「造形遊びの学習」を中心に、それぞれ低学年・中学年・高学年から具体的な授業のあり方等について、当日は会場満員のなか実施することができた。 [7月27日～8月20日] 今年度も、ピースおおさかで大阪市小学校児童絵画・版画展を開催し教員の作品学習会の場とした。（研究委員及び各校図画工作主任のべ130人参加）。また、来館者は今年も1000人を超え、アンケートを実施し、展覧会開催の効果を検証した。 [9月～12月] 各学年部：研究授業実施 低学年部 （長池小学校・造形遊び）（新北島小学校・鑑賞） 中学年部 （成育小学校・絵）（東粉浜小学校・造形遊び） 高学年部 （友淵小学校・造形遊び）（今里小学校・鑑賞） [1月]総合研究発表会（1年次発表）にむけて準備 [2月]総合研究発表会・作品展を実施。 実施したアンケートについて、図画工作部研究委員宛て学校へ配信し、質問について回答した。また、当日の参加者に1冊ずつ、後日市内全小学校へ1冊ずつ研究冊子を配付した。 来年度の大阪市小学校児童絵画・版画展への出品作品について、確認・整理・作品鑑賞研修会を実施した。 [随時] 市内全域の小学校教員に呼びかけ、土曜自主研修会を開催、年間6回実施した。内容については、基礎・基本的なことから多岐に渡る内容で、また材料・用具の扱い・実技研修を伴う形で行い、詳細については、各回、2月の総研発表研究冊子に掲載した。毎回、熱心な参加者もあり、内容についても好評で高い評価を得ることができた。 大阪市教育センターからの依頼、また各校からの依頼により、研修会、研究授業への参加や指導・講評など、日頃の図画工作部内での研究の成果を活かし、その担当にあたることができた。															
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。 <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 2 月 7 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 300 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大阪市立育和小学校</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3">講堂</td> </tr> </table>				日程	令和 7 年 2 月 7 日	参加者数	約 300 名	場所	大阪市立育和小学校			備考	講堂		
日程	令和 7 年 2 月 7 日	参加者数	約 300 名														
場所	大阪市立育和小学校																
備考	講堂																

6	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果１】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 <p>【研究成果の研究部内での共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会実施に当たって、指導案検討会や研究協議会を行い、研究の課題や成果などを話し合い、各部会だより（低・中・高学年部会）にまとめて、研究委員全員に配付する。 <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会に参加した図画工作部員及び一般の教員にアンケートを実施し、当該授業研究会が、指導力向上につながる内容だったかを問う。※目標数値 肯定的回答８割以上 <p>〔検証結果と考察〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・９～１２月に、指導案検討会及び授業後研究協議を伴う、授業研究会を合計６回実施することができた。 ・授業研究への案内については、大阪府小学校教育研究会図画工作部員対象であったが、中には各支部（区）の授業研究会とも重ね、区内の先生方にも参加いただく機会があった。さらに、授業研究会実施校の先生方の参観、授業後の討議会にも参加くださる学校もあり、「授業研究会が、題材理解及び指導力の向上につながった」との肯定的回答は、１０割となった。また、研究部長が、大阪府や堺市の美術・図画工作の発表、中学校の総合研究発表会に直接参加し、発表後のグループ研修の場で意見を交流することができ、小中連携の一役を担うことができた。また、それらを本図画工作部内にも伝達し、広げることができた。次に、それぞれの学年部からの意見やアンケートからまとめたものを示す。 <p>【低学年部】</p> <p>（成果）経験の浅い教員も抵抗感なく図画工作科を指導できるように、活動場所についての紹介や、材料の収集や保管、鑑賞カードなど指導材やワークシートもセットにしておくとよいことなど、モデルを示すことができた。</p> <p>（課題）児童の発達段階に応じた資質や能力を高める、より効果的な授業展開の在り方を探ること。また、児童が図画工作科を学ぶ意義を明らかにし、題材の内容の理解や分析をさらに進めること。</p> <p>【中学年部】</p> <p>（成果）共同で表現したり鑑賞したりする活動を取り入れることで、子ども同士の対話が生まれ、一人一人の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができた。また、一人一台端末や振り返りカードを活用し、活動を記録したり共有したりすることで、子どもたちがこれまでの活動を振り返りながら新しい表現に生かしたり、指導者が一人一人の表現や活動に込めた思いを見取りやすくなった。</p> <p>（課題）各学年の内容を指導するにあたって、発達段階に応じた材料・用具の扱いや、題材の経験を系統的に指導することが各学年での指導をスムーズに進めるうえで大切であることが明らかになった。今後も、低・高学年部と連携して、６年間を通した系統的な指導を進めていく。</p> <p>【高学年部】</p> <p>（成果）育成する資質・能力や学ぶ意義を明確にし、見通しをもって題材研究を行った。また、学びの系統性を見直したことで、子どもたちの支援を具体的にを行うことができた。その中で、夢中で活動する姿、協働する姿、達成感に満ちた子どもの姿が見られた。</p> <p>（課題）造形遊びや鑑賞教育において、場所や実感を考慮したさらなる実践を進めていく。</p> <p>以上のような内容から、それぞれの部会が、研究目的（研究目的の１「育成を目指す資質・能力」「教育課程の編成」等を含む）に沿って授業研究会を実施し、１年間研究を深め授業力の向上を図ってきた。さらに、今年度は図画工作室・準備室の環境整備についてや、学習指導材の効果的な活用についても、研究発表会の場において紹介することができ、アンケート内容からも「大いに参考になった」「本校でも取り組みたい」との声をいただくことができた。さらに、年度末には図画工作部全体の総括会を開催したところ、それぞれの学年部のつながりを意識したプレゼン内容となっており、研究成果について共有できた。これらのことも、市内各校教員の指導力の向上へとつながる一助になると考えている。</p> <p>【見込まれる成果２】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 <p>【児童絵画・版画展における鑑賞指導実践力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・１月に各区において児童絵画・版画展の作品選定会を行う。各区では作品学習会を行い、児童の作品の見方や指導のあり方などについて研究する場とする。 ・美術館を活用した鑑賞教育の充実及び学校と美術館の一層の連携を図るため、８月に開催される指導者研修会（国立西洋美術館・国立新美術館）に図画工作部から担当者１名が参加・受講する。 ・東京造形大学で実施予定の芸術系教育全国研修会へ参加・受講する。 <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品学習会に参加した、各区図画工作主任にアンケートを実施し、児童作品の見方の研修として学習会は有効であったかを問う。※目標数値 肯定的回答８割以上 ・研修終了後に、本研修の成果を普及・還元し、「鑑賞教育（表現と鑑賞、造形遊び）」を充実させていくことについて理解が深まったかを問う。※目標数値 肯定的回答８割以上
---	-------	---

〔検証結果と考察〕

・今年度も、各区の状況にあわせて、各校で作品選定を行い、各区図画工作部支部委員が取りまとめ、令和6年8月にびーすおおさかで実施する大阪市児童絵画・版画展に向け、準備を進めることができた。

・各区の状況に合わせた形で、作品学習会を行ったところ、参加者からは「どの作品も丁寧に描かれていて驚いた。それぞれの良さがあり、展示の方法もよかった。」「毎年楽しみにしているが、今年も見に来てとても楽しく、元気をもらえた。」「いろいろな学年の人の絵を見ることができたので、次、自分が作品をつくるときの参考にしたい。」など、肯定的回答が10割となった。実際の作品を見ながら、作品の見方や評価、指導のあり方についての課題を教職員同士で交流できたことは、日頃の授業のあり方について、参加者にとって次につながる新たな気づきがあった点で有意義であったと考えられる。

・美術館を活用した鑑賞教育の充実及び学校と美術館の一層の連携を図るため、8月に開催される指導者研修会（国立西洋美術館・国立新美術館）に図画工作部から担当者1名が参加・受講することができた。さらに、東京造形大学で行われた芸術系教育全国研修会へ参加し、SDGsや系統性を意識した図画工作科の授業の在り方について学ぶことができた。それらのことを大阪に持ち帰り、研究部内でその様子や内容について伝達研修を行い、情報を共有することができた。

・令和7年2月に行った総合研究発表会では、全市小学校や中学校、堺市の図工美術研究団体の代表者、国立国際美術館等から約300名の参加者に対し、今年度の研究内容も含め、研修で学んだ「鑑賞教育」や「造形遊び」、「系統性の大切さ」についても広めることができた。参加者アンケートからは「今日たくさんの指導法や題材を目にし、造形とは何か、鑑賞とは何かを考えさせられました。また、新しい知識とともに、知識があれば考え（子どもの成長につながるもの）が広がると思いました。特に鑑賞に関しては、低学年からアートカードに触れ、高学年で美術館に行く経験は、すごくいいなあと思いました。」「6年間の学びを系統立てて取り組んでおられたので、子どもたちの表現が、学年があがるにつれ広がっていたように思います。積み重ねの大切さを改めて学ぶことができました。ぜひ学校でも広めたいです。」などの感想をいただいた。「鑑賞教育（表現と鑑賞、造形遊び）」の充実について理解が深まったかについて肯定的な回答の割合は10割であった。伝達内容についてよりポイントをしばってパワーポイントを作成し説明したことも、肯定的な回答につながったのではないかと考える。

【見込まれる成果3】

- ☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上
- ☒ 教員の資質や指導力の向上

【題材実技研修会における検証】

・研究委員を中心とした題材実技研修会を実施する。

《検証方法》

・アンケートにより、取り組みの内容などについて検証し、「図画工作科」の指導についての理解が深まったかを問う。※目標数値 肯定的回答8割以上

〔検証結果と考察〕

・7月～8月にかけて、研究委員対象の題材研修会を実施した。材料を持ち寄ったり、実際にその題材で体験したりすることを通じて、指導力の向上を図った。また、図画工作部研究委員同士の交流を図るうえでもたいへん有意義な時間となり、研修会の内容について肯定的な回答は10割となった。

・今回の題材は、「アートカードを使った鑑賞活動」「にじみを活かした絵画表現」「材料や場所を活かした造形遊び」など、昨年度とはまた違った題材を取り扱った。参加者からは「鑑賞の時間の進め方がわかった。対話や、子ども一人一人の見方や感じ方を大切にしたい言葉がけを私もしていきたい。」「にじみの表現が楽しい！これは、子どもたちも夢中になって取り組みそう。」「実際に、造形遊びを体験できてよかった。ダイナミックで、想像を掻き立てられ、最後はみんなが笑顔になりました。」など、意見や感想をお寄せいただいた。「鑑賞」や「造形遊び」の学びや、新たな技法との出会いや体験に、研修会に参加した方々からは、この研修会は大変有意義であったと、肯定的な回答10割となった。

・実施した内容については、各学年部会が「部会だより」として当日の様子について作成し、小学校教育研究会のホームページに随時アップした。（研究目的2「全市的な図画工作科の指導力の向上」を図るべく、今年度はホームページへのアップについてもかなり力を入れて行った。結果、昨年度までと比べ、新たな話題について更新することができた。記事のアップ頻度は数ある研究部のなかで、上位に位置している。また、今年度のアクセス数は、現在3万6000件を超えている。）

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>【児童絵画版画作品展開催における検証】</p> <p>・大阪市内各校から出展した児童絵画版画作品展を夏季休業中にピース大阪で実施し、児童作品の鑑賞の場とする。</p> <p>《検証方法》</p> <p>・作品展参観者にアンケートを実施し、作品展開催の意義等について問う。</p> <p>※目標数値 作品展開催について肯定的回答8割以上</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>・ピースおおさか特別展示室において、令和6年7月27日～8月20日までの期間、第40回大阪市児童絵画版画展を実施した。連日、今年も盛況であった。</p> <p>・作品搬入展示・入替・搬出時に、図画工作部員及び各校図画工作主任が延べ130人程が参加し、児童作品の鑑賞について理解を深めることができた。（研究目的の2について成果を記載する）</p> <p>・今年度も、来場者は1000人を超えた。また、アンケートでは、本展覧会についても、子どもの作品に感動した、指導された先生方の努力に感謝しています、など肯定的な回答が10割であった。</p> <p>実施し、前期292点、後期276点、総数568点の児童作品を鑑賞することができた。また展示作業には多くの支部員・研究委員の方々の協力を仰いだ、展示作業後に作品鑑賞の場を設け、作品を通して子どもたちの表現をどのように見取るかについて研修を深めた。「作品展開催は、有意義であったか」の肯定的回答は10割であった。</p>
		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>・今年度もSKIP・TEAMS等も活用しながら、研究活動を進めることができた。集まる機会も増えるなか、低・中・高学年部会各2本計6本の授業研究会を実施することができ、「鑑賞」や「造形遊び」など、図画工作科のなかでも、指導がなかなか難しいと感じておられることが多い題材についても、指導法の研究を進めることができた。特に「6年間の系統性」を意識した指導案、授業実践、発表内容等、各研究部間でより連携した形で進められたことがよかった。</p> <p>・今年度は、それらに加えて、図画工作室・準備室の環境整備や、学習指導材の効果的な活用についても、研究発表会のなかで、それらに特化して発表することができた。</p> <p>・実技研修会については、図画工作部員対象に7～8月に実施することができた。研修の様子については、各学年部や担当者から題材研修ニュースを発行して図画工作部員で共有したり、研究冊子に掲載したりして、広く大阪市内教員に伝えることができた。</p> <p>・今年度もピースおおさかのご理解・協力を得て、大阪市児童絵画・版画展を、予定通り開催することができた。例年以上に、準備に関わった教員及び来場者も多く、アンケート結果からも充実した展覧会になったと言える。</p> <p>・今年度も300名へ参加の枠を広げ、参会しての研究発表会を開催することができた。また、ギャラリーからの多種多様な絵画作品、台の上に展示された立体作品、造形遊びや、光を扱った題材のブースも準備し、参加した方からは、プレゼンでの研究発表だけでなく、こうして児童の作品そのものを見ることができたこと、また制作の過程についてもわかりやすく示されていてよかったと、高評価のお声をいただいた。また、小学校のみならず、中学校や堺市の校長先生、また国立国際美術館の学芸員さんにもご来場いただいたこともありがたかった。研究冊子についても毎年楽しみにしてくださっている様子であり、「研究発表での学びを自分の学校で広めたい」「発表も作品展もとても良かった。図画工作部の研修会や発表会にこれからも参加したいです、という声も届いている。11月に迫ってきた「おおさか大会（全国大会）」に向け、そのような皆さんの声に応えられるような、本研究部の活動を今後もさらに工夫して進めていきたい</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>今年度も各学年部の幹事を中心に、また図画工作部の校長・副校長先生方の協力を得ながら、ここまで研究を進めることができ、一定の成果を得ることができた。また、研究活動を通して培ってきたこれまでの「つながり」を大切にしつつ、来たる令和7年11月17日・18日開催の「おおさか大会（全国大会）」に向けて、大阪府・堺市・大阪市がひとつの大きな「輪」となって歩み、図画工作を通してつながっていけるよう、取り組んでいきたい。</p>

		2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する
		3. 継続研究（3年目）